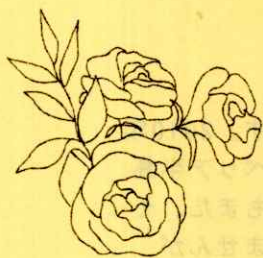


～ 明けましておめでとうございます ～



*¡Feliz Año Nuevo!*

## 大栗川かるがも館

# 新春フラメンコショー

## プログラム

2025年1月19日 12:30開場 13:00開演

かるがも館 2階ホール

### 演目紹介 (順不同)

ソレア

「孤独」を意味する言葉が由来と言われる。「フラメンコの母」と呼ばれ、深い悲しみや情念が力強く表現される、フラメンコを代表する曲。

グアヒーラ

スペイン移民者がキューバの地で付けられた呼び名グアヒーロ（白人の農民者）からきている。キューバの大衆歌であったものがタンゴ・ガディターノ（カディスのタンゴ）の新しいリズムのフラメンコのなかに取りこまれて生まれた曲。

アレグリアス

ALEGRIA（喜び）が由来。躍動感に溢れた明るい曲調だがそこには、人生における孤独や苦しみ、嘆きなどを突き抜けた先にある「喜び」が表現されている。

タラント

古くは炭坑や鍛冶で栄えたアンダルシア東部レバンテ地方。そこで働いていた貧しい労働者たちの中から生まれた「嘆きの歌」と言われる。ゆっくりとした抒情的なリズムとギターによる不協和音を伴う独特な響きが特徴。

ボルベール  
(カンテソロ)

もとはアルゼンチンタンゴ。アルゼンチンの国民的英雄カルロス・ガルデルが作り、自らが主演する映画の挿入歌として歌われた。

グラナイーナ  
(ギターソロ)

グラナダ発祥の曲。ファンダンゴと呼ばれるアンダルシアに根付いていた3拍子の民謡のグラナダ版が進化したもの。通常は歌とギターだけ、またはギターソロで演奏することが多い。他のファンダンゴよりもアラブの伝統をより強く反映している。

フィン・デ・フィエスタ

「宴の終わり」の意。フラメンコショーの最後に踊られる定番。通常ブレリアのリズムで踊られる。

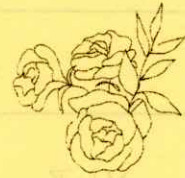
※曲目は変更になる場合があります。ご了承ください。

多摩市和田・東寺方コミュニティセンター運営協議会文化部主催

# はじめに

フラメンコとはスペインの南部アンダルシア地方を中心に伝わる民族音楽、舞台芸術です。2010年にはユネスコによりスペインの無形文化遺産に登録されました。スペインが位置するイベリア半島はアラブ、ユダヤ、ローマ帝国など様々な文化が影響してきた歴史があり、フラメンコもまた、それらの文化の影響を多く受けて発展してきました。フラメンコのルーツは定かではありませんが、およそ600年前に北インドから流浪してきたヒターノまたはロマと呼ばれる人々の音楽がルーツの一つと言われています。彼らは社会の底辺で暮らし、多くの迫害を受けながら生活してきました。苦しみや嘆き、そしてその奥底から湧き上がる喜び・・・懸命に生きる人々の心を映し出してきた音楽が、様々な文化と融合して出来た芸術、それがフラメンコです。

かるがも館で開催する新春フラメンコショーは今回で4回目となります。多くの地域の方にご来場いただき、今やリピーターの方もいらっしゃるようです。曲種が同じでも踊り手や歌い手、ギターが変わるとまた違う感動を味わうことが出来るのもフラメンコの特徴です。本日も素晴らしいアーティストをお迎えしました！ぜひ存分にお楽しみください！



## 出演者紹介

### 吉田光一 (踊り)

北海道生まれ。17歳よりフラメンコを始める。日本では森田志保に、渡西してからはエル・トロンボ、ファルキートに師事。24歳で出場した第10回日本フラメンコ協会主催・新人公演バイレ・ソロ部門で奨励賞受賞。同年に結成したフラメンコグループ『クアトロ・カミーノ』のメンバーとして、7度の全国ツアーを経験。2017年12月、(アルテ・イ・ソレイラ、阿木耀子氏、宇崎竜童氏)『Ay曾根崎心中』では、天皇后両陛下の御観覧の中、客演舞踊手として出演を果たす。2020年10月、沖仁企画のビルボードライブツアーに、クアトロ・カミーノのメンバーとして参加。同年、カンテを石塚隆充に師事。2021年8月、日本フラメンコ協会主催『フラメンコルネッサンス21・新人公演』のカンテ・ソロ部門において奨励賞を受賞。これにより、男性としては新人公演史上初となるバイレ・ソロ部門とカンテ・ソロ部門、二部門での奨励賞受賞者となる。現在は都内タブラオ、舞台を中心に舞台活動を行いつつ、フラメンコ舞踊、パルマ(手拍子)の指導と、精力的に活動している。

### 高野 泉 (踊り)

森田志保主宰スタジオトルネージョにて同師に師事。トルネージョにて講師を務めた後にフリーになり、高野泉フラメンコクラスを開設。短期渡西や、スペイン人アーティストに師事しながら現在は都内タブラオ等で活動、後進の指導にあたる。2008年日本フラメンコ教会新人公演にて群舞部門奨励賞受賞。

### 齊藤綾子 (歌)

京都出身。慶應義塾大学在学中、サークルでフラメンコに出会い踊りと共にカンテを学び始める。小森皓平に師事。現在は短期渡西を挟みつつ、都内を中心に幅広くライブ活動をしている。

### 盛植俊介 (ギター)

パコ・デ・ルシア、ピセンテ・アミーゴを聴き衝撃を受け、フラメンコギターを始める。様々なアーティストに師事し、スペインに三度の留学を果たす。現在はロマン・ピセンティ氏に師事。フラメンコを様々な視点で勉強、追求し、独自のフラメンコスタイルを磨きつつ、後進の指導も開始。2017年 Benito Garcia スペイン・コルドバ公演に出演。2019年及び2022年に自身のリサイタルを開催。2021-2024年「浅草橋バリーカ」ブッキング兼レギュラー出演。2023年公演「La Luz 闇夜の光」主宰。多摩平フラメンコギター教室代表講師。地域向けにフラメンコの周知活動も精力的に行っている。